



# デメテル Demeter

群馬県立自然史博物館だより No.63

Newsletter of Gunma Museum of Natural History 2015. 春

デメテルはギリシャ神話に登場する大地の女神で、群馬県立自然史博物館のシンボルマークになっています。



恐竜時代とも呼ばれる中生代では、その名の通り恐竜たちが繁栄し、陸上をのし歩いていたことはよく知られています。しかし、当時の海洋にも現在では絶滅してしまった生きものたちが主役として大繁栄していた世界が広がっていました。今回の企画展では、当時の海洋における生態系の頂点を占めていたクビナガリュウ類、ギョリュウ類、モササウルス類といった、いわば恐竜時代の海の支配者たちを中心に、恐竜時代の海に生きていた生きものたちの世界を紹介します。

## 企画展 オープニングセレモニー

- 7月11日(土) 9:40~
- 参加費：無料
- 会場：当館学習室・企画展示室

## 講演会 「フタバズキリュウ発掘物語」

- 7月11日(土) 13:30~15:30
- 講師：長谷川善和（群馬県立自然史博物館名誉館長）
- 定員：100名 ■参加費：無料 ■会場：当館学習室

## 講演会 「恐竜時代の海のなか」

- 7月19日(日) 13:30~15:30
- 講師：佐藤たまき（東京学芸大学准教授）
- 定員：100名 ■参加費：無料 ■会場：当館学習室

## 映画ドラえもん「のび太の恐竜 2006」

- 8月2日(日) ①10:00~12:00 ②13:30~15:30
- 2回目の上映は長谷川名誉館長によるミニ講演会付き
- 参加費：無料 ■会場：かぶら文化ホール

## 自然教室 「ワイヤーアートでよみがえるアンモナイト」

- 8月9日(日) ①10:30~12:00 ②13:30~15:00
- 講師：細川努（株式会社T.G.ワークス）
- 定員：各回20名・小学生以上（小3以下は保護者と一緒に参加）
- 参加費：250円（材料費・保険料） ■会場：当館実験室

## 自然教室 「化石のコハクストラップを作ろう」

- 8月23日(日) 13:30~15:30
- 講師：館職員
- 定員：30名・小学生以上（小3以下は保護者と一緒に参加）
- 参加費：1,670円（材料費・保険料） ■会場：当館実験室

※申し込み方法は、各イベント開催日の1ヶ月前の9:30より電話で受付（先着順）。ただし映画は事前申込不要。

## 展示詳解

# ゴニオフォリス

今夏に開催される企画展「恐竜時代の海の支配者」(7月11日～8月31日)では、クビナガリュウの仲間やモササウルスの仲間など、恐竜時代とも呼ばれる中生代の海に生きていた大型の爬虫類たちが目を引きます。今回はその中でも隠れた目玉展示をご紹介します。それが世界初の実物化石を用いた絶滅ワニ「ゴニオフォリス」の全身骨格組立復原と生体復原画です。

この標本は今回の企画展のために当館と成安造形大学との共同プロジェクトによって制作されました。化石骨格の組立といっても単に組み立てればよいわけではありません。化石として見つかった骨は単なる骨ではなく、今から1億年以上前に生きていた生物の体を形作っていた骨なのです。太古の生きものの本当の姿を現在に甦らせる。そのためにひとつひとつの骨の形や、関節の状態などを細かく検討し、それらをもとにして太古の昔に生きていた当時の姿を復原していきます。今回の復原プロジェクトでは当



館の担当職員と大学の研究者・技術者の方々と詳細な打合せを行い、それから各作業段階ごとに検討を重ねて製作を行いました。今年の夏は当館でおおよそ1億5000万年ぶりによみがえった世界初公開となるゴニオフォリスの姿をぜひご覧下さい。

(学芸係 木村 敏之)

## 自然のコラム 『こんなカタツムリ発見』

「かわいい、貴重だ！」発見時の私の感想です。この写真を見てどうですか？富岡製糸場のある富岡市内、住宅と畑、道路や街路樹、用水路などが入り組んだ緑の残りのどかな場所で発見しました。このカタツムリは住宅地の奥に広がる畑の横、明治初期のお墓に1本だけ生える大きな木の洞の中で暮らしていました。

私はここに来る度に、この洞をのぞき込んでいました。これまでにこの場所でカタツムリの殻(空になった巻き貝)を見つけていました。カタツムリの殻と柔らかい本体は分離しませんし、殻は数年で土に戻ります。つまり、殻の発見はつい最近までここにカタツムリが生きていた証なのです。しかし、生きているカタツムリは見つかりません。近頃は地球温暖化の影響か、カタツムリにとっては激しく暑い気候が続きます。「すでに全滅？」などと私は不安を感じていました。つい先日ものぞき込み、「カタツムリはいるかな？」と殻を拾い凹んだ気持ちでいました。ところがしばらくすると手のひらがムズムズ！手に握っていた殻、11個のうちの1つが、ウニョウニョと動くのです。うれしかったです。そもそも、カタツムリは人が来ても逃げませんし、身の危険を感じても殻の中に引っ込むだけです。また、川を渡れませんし、空も飛べません。乾燥にも暑さにも弱い動物です。このカタツムリには、この木1本が大切なのです。

調査に出かけると「最近、カタツムリを見なくなっ

たよ」とよく聞きます。しかし一方、畑にカタツムリが現れ、青葉を食い荒らし困るという話も聞きます。前者は環境変化などでカタツムリが姿を消している例を示している可能性があり、後者は別な地域からのカタツムリが住み着きこれまでと生態系が変化している例を示している可能性があります。どちらも生態系の変化を示す良い例ではありません。地域の自然を守るためには、正しい知識をもって生物に接し、日常生活を省みる必要があります。

このカタツムリは殻の特徴から「ナミコギセル」でした。ナミコギセルは群馬県内では特別な種ではありませんが、富岡市の住宅地の中で見つかったという意味ではとても貴重です(過去からここで命のバトンをつないでいたのでしょう)。ナミコギセルの殻は標本として当館で収蔵し、生きているナミコギセルは元の住み家に返しました。(学芸係 茂木 誠)



# 歯形が残された化石

デメテール 59 号では、常設展示されているペルー産のナガスクジラ類化石の頭骨にサメの歯がくいこんでいたことをご紹介しましたが、自然史博物館にはそのほかにも他の動物に咬まれた歯形が残っている化石があります。その代表は、常設展示 A-3 コーナーにあるカマラサウルスの全身骨格です。右の大腿骨の末端の膝関節の部分に肉食恐竜がつけた歯形があります(写真1)。解説員の定時解説でも紹介しているこの歯形は、複数の溝がほぼ平行に並んでいるもので、右の骨盤の上部(腸骨)にも同じようなあとが見られます。これらの歯形がつけられたのが、このカマラサウルスが生きていた時なのか、それとも死んだ後なのかはまだわかっていません。また、常設展示 C コーナーには、ネズミの仲間にかじられた歯形が残るサイの仲間の下顎の化石があります。こちらの歯形は、死んだ後に骨がバラバラになっていく過程でかじられた可能性が高いと考えられます。



写真1 カマラサウルスの右大腿骨に残る歯形

一方、収蔵庫には絶滅した巨大ザメ、カルカロドン・メガロドンの歯形がつけられた化石が保管されているのですが、それらの一つは、カルカロドン・メガロドンの別の歯(同じ種類なのに!)についていました。別のメガロドンに咬まれたため、歯の外側の部分の一部がけずられ、その部分から横に向かって歯のギザギザと同じ間隔の凸凹が残されました(写真2の赤く囲った部分)。もしかしたら同じエサを奪い合う中で、別の個体の顎を咬んでしまったものかもしれません。

また、最初にふれたナガスクジラ類化石からも、昨年度の高校生学芸員の調査で多数のサメの歯形が見つかりました。このクジラの様に、歯形をつけた動物と歯形と一緒に見つかった化石は世界的にも少ないのですが、夏の企画展に登場するフタバサウルスはそのわずかな化石の一つで、クレタラムナというネズミザメの仲間にかまれたことがわかっています。このように、歯形が残る化石は、過去の生物同士のつながりについて、多くの情報をもたらしてくれるのです。(学芸係 高乗 祐司)

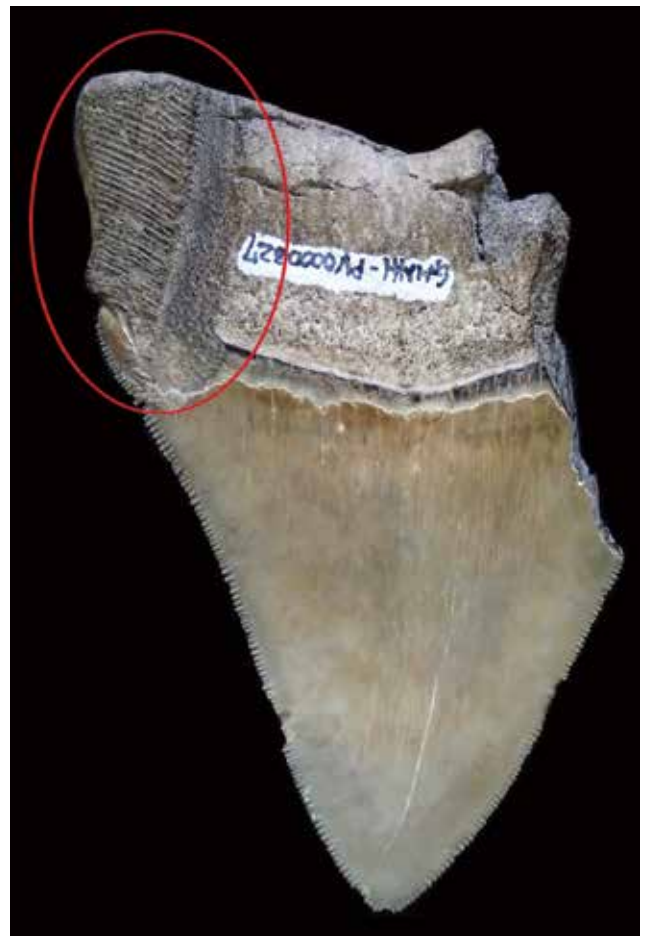


写真2 カルカロドン・メガロドンの歯に残る歯形

# 岩神の飛石の兄弟!? 中之条の「とうけえ石」

みなさんは、デメテル No.61 の2ページでお伝えした岩神の飛石のなぞについて覚えていますか。「前橋市の岩神稲荷神社の敷地にある国指定天然記念物の巨礫（大きな岩石）が、自然の力でどこから運ばれてきたのかわかっていないため、現在調査中です。」という内容の記事です。

その後の調査の結果、岩神の飛石のそっくりさんが中之条町にいることがわかりました。その石が今回ご紹介する「とうけえ石」です。この中之条町指定天然記念物の「とうけえ石」は、約2万3000～約2万4000年前の浅間山の噴火で崩れた山の一部が、ものすごい勢いで吾妻渓谷を通して運ばれてきたものだと言われています。

「とうけえ石」の楽しみ方は2つあります。ひとつは、上に書いた過去の大事件を想像しながら「とうけえ石」の大きさを観察することです。もうひとつは、「とうけえ石」と岩神の飛石を見比べてみて、これらの巨礫が本当に兄弟なのか考えてみることです。中之条の町歩きをしながら、ぜひ「とうけえ石」を見に行ってみてください。

(学芸係 菅原 久誠)

交通アクセス：JR中之条駅から徒歩約10分



図1 とうけえ石までの地図



図2 とうけえ石の近景写真

## 自然史博物館探検隊

当館では、夏休みになったばかりの7月末に小学4年生～6年生を対象にした博物館探検隊を実施しています。このイベントは開館した翌年の夏（平成9年度）から、ずっと続いている人気のあるものです。では、どうして人気があるのかというと・・・。

まず、名前からもわかるように、博物館を見学するのではなく、探検をします。探検ですから、当然普段見ている展示室を回ったのでは面白くありません。普段は入れないところを探検します。博物館には、大きな収蔵庫が3つもあります。そこには、およそ16万点の資料が大切に保管されています。また、大きなゾウを乗せることのできる大型エレベーターもあります。そのような場所を探検します。なんだか、ワクワクしてきましたね。

さらに驚くことに、この探検はお客さんがいなくなった夜に行われます。もちろん、展示室は真っ暗です。暗闇の中、恐竜たちはどうしているのでしょうか。ひっそり、息を潜めてじっとしているのでしょうか。ドキドキしてきました。

そして、もっと驚くことにこの探検は、博物館の展示室にみんなで布団を敷いて1泊するのです。みんな自分のお気に入りの場所を探しぐっすり眠ります。定員は、30人です。寝食をともにした子ども達は、翌朝には深い絆で結ばれ、どの子ども達も達成感ある満足した表情になっています。

(教育普及係 小須田 健志)



ここは、どこだ!



フナ林を探検



みんな、ぐっすり

### 利用案内

- 開館時間 午前9:30～午後5:00(入館は午後4:30まで)
- 休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)8月は全日開館
- 観覧料

	一般	高校・大学生
常設展のみ開催	510円	300円
第49回企画展開催時 (H27.7.11～8.31)	720円 <small>(団体割引20名以上570円)</small>	410円 <small>(団体割引20名以上320円)</small>

※中学生以下、身体障害者手帳・療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料となります。  
※有料者20名以上は団体料金で2割引となります。

### 群馬県立自然史博物館だより Demeter No.63

編集・発行 群馬県立自然史博物館  
〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1  
Tel.0274-60-1200 Fax.0274-60-1250  
ホームページ  
<http://www.gmnh.pref.gunma.jp/>



Demeterは、地球環境保全のため植物油インクを使用しています。